

その瞬間のつながりを、未来へ。



CORPORATE PROFILE

会社案内



中国電力ネットワーク株式会社



経営理念

人と技術をはぐくみ、 地域とともに輝く未来をひらく

私たちは、社員の成長と一人ひとりが持つ技術・技能や知識を大切にしながら、
地域とともに歩み、誰もが希望を持つことのできる未来を創造します。

安定供給の使命を胸に、 未来をひらきます。

中国電力ネットワーク株式会社は、中国電力株式会社から送配電事業を引き継ぎ、2020年4月にスタートを切りました。

私たちの原点は「電気を守り、安定してお届けすること」と「お客さまからの信頼」です。当社のシンボルマークは、社名、事業基盤である中国地域、お客さま(Customer)の頭文字である「C」をモチーフに、「お客さま・地域」「社員」「設備」「グループ会社」「異業種企業」のネットワークの力を結集して、地域社会とともに発展する企業を目指す意思を表しています。

2020年の事業開始以降、物価上昇に伴う調達コストの上昇、人口減少・少子高齢化に伴う人材確保の困難化、AIの発展をはじめとしたデジタル化の急速な進展など、当社を取り巻く経営環境は大きく変化しています。こうした経営環境の変化を踏まえ、私たちは今後の基本姿勢および経営の方針等を社内外に示すため、「経営理念」と「経営ビジョン2040」を新たに策定しました。多様な人材が活躍できる組織づくりと、柔軟かつ強固なネットワーク基盤の構築を進め、地域社会との共創を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

今後も、コンプライアンスを最優先に、「中立・公平・透明」な業務運営を徹底し、激甚化する自然災害への備えやカーボンニュートラルへの対応、デジタル技術の活用などに着実に取り組みます。

これからも、電力の安定供給という変わらぬ使命のもと、お客さまや地域の皆さまに寄り添い、安心と価値をお届けしてまいります。



代表取締役社長
長谷川 宏之

私たちは、技術を磨き、知恵を重ね、安定した電力供給を続けてきました。これは、当社グループに関わる全ての仲間がそれぞれの役割を果たし、協力することで実現したものです。私たちは新しい経営理念のもと、環境変化に対応し、地域とともに輝く未来を切りひらくための挑戦を続けます。

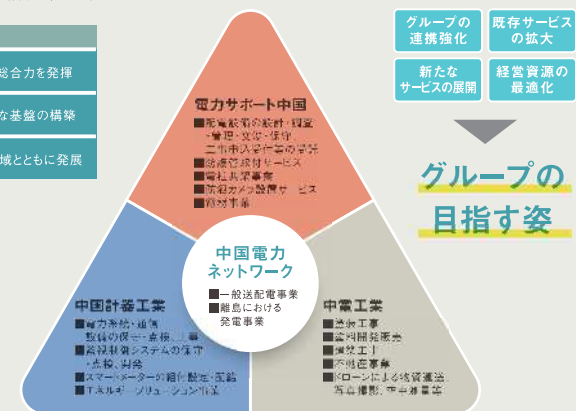
目指す姿

将来の社会環境を踏まえ、事業運営の基盤である「人」、電力の安定供給に必要な「設備」、地域のお客さまの期待・予想を上回る新たな「価値」という3つの観点から、2040年の目指す姿を定めました。

区 分	目 指 す 姿
人	多様な人材が成長・活躍し、組織としての総合力を発揮
設備	安定的に電気をお届けする柔軟かつ強固な基盤の構築
価値	新たな価値を提供し、事業活動を通じて地域とともに発展

価値基準

安全と健康	すべての事業活動において、安全と健康を最優先します。
お客さまの信頼	お客さまとの信頼を大切にし、誠実な対応で期待に応えます。
地域との共創	地域との共創を通じて、持続可能な地域社会への発展に貢献します。
革新への挑戦	技術と業務の革新に挑戦し、未来に繋がる新たな価値を創造します。



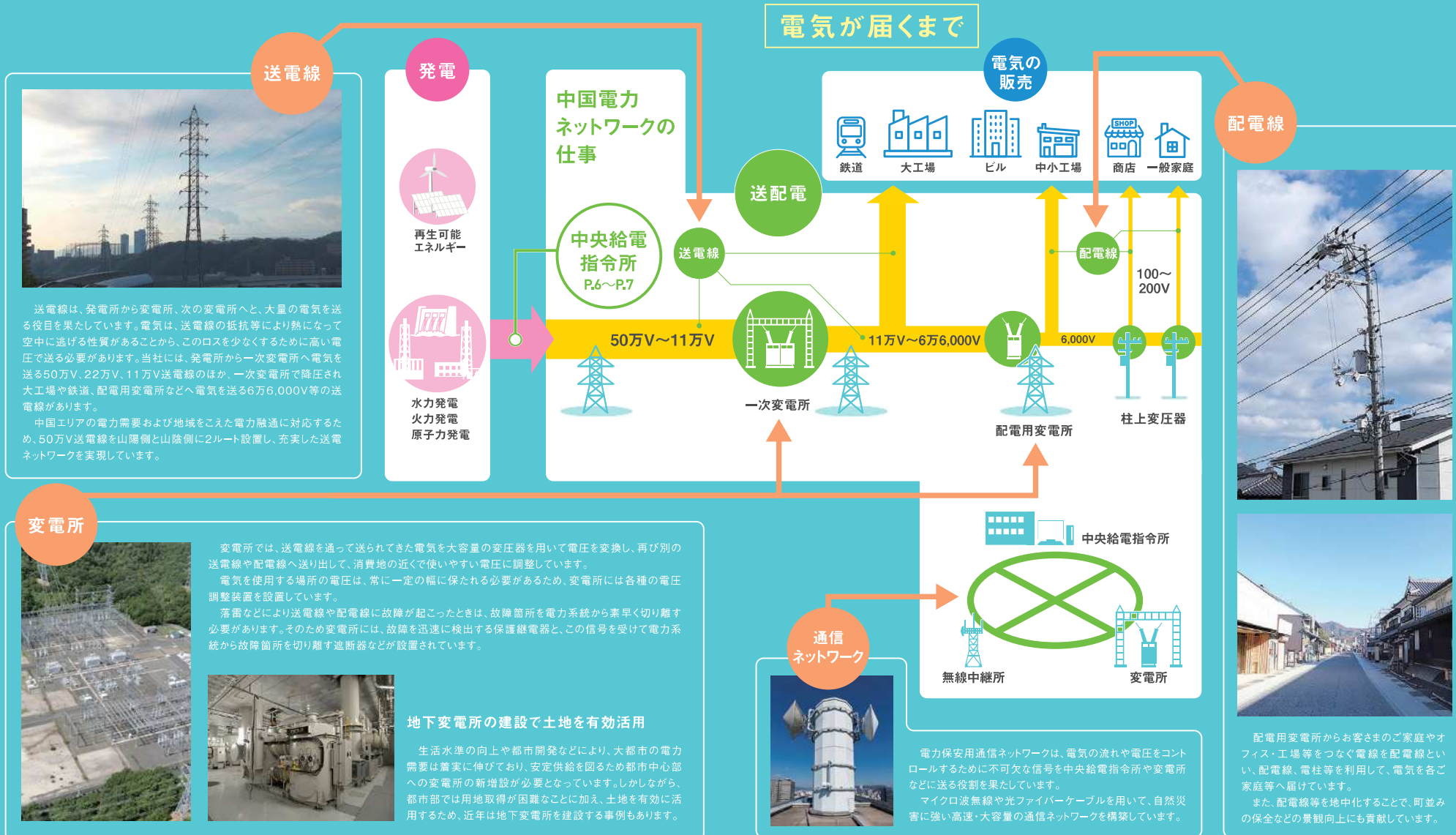
キーコンセプト「その瞬間のつながりを、未来へ。」

電気を確実にお届けする。

お客様の暮らしにとって、いつもそばにある電気。この電気を毎日確実に送り続けること。それが、わたしたちの使命です。

— 電気を確実にお届けする —

— 電気を確実にお届けする —



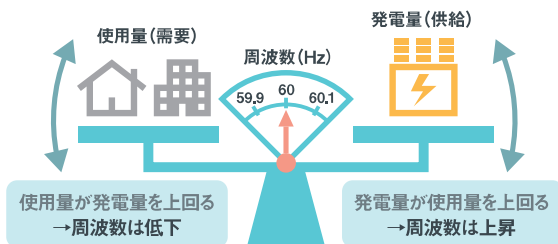
24時間365日、電気の供給を コントロールする中央給電指令所

— 電気を確実にお届けする —

需給運用

電気の使用量と 発電量は常に同じ量に！

電気は他の商品とは異なり、あらかじめつくって大量に蓄えておくことができません。このため、時々刻々変化する電気の使用量に合わせて、火力発電の出力増減や揚水発電の運転・停止などにより発電量を調整し、常に使用量と発電量が一致するようにコントロールし続け、安定した品質の電気をお届けしています。



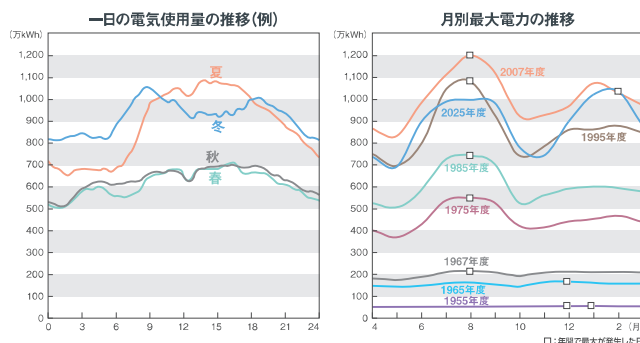
電気の使用量はたえず 変化しています。

1日のうち昼間と夜間では電気の使用量に大きく差があります。

これは、昼間に工場やオフィスなどでたくさん電気が使われるのに対して、深夜は社会活動があまりおこなわれていないためです。

また、昼休み(12時から13時)の間は、使われる電気の量が一時的に少なくなっています。

1年を通して、冷房や暖房機器が活躍する夏や冬は、春や秋に比べて、多くの電気が使われます。



電気の使用量を予測し需給運用計画を立てます。

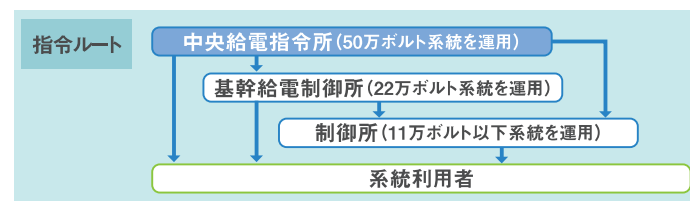
電気の使用量を、気象状況、季節変化、社会の動きなどをもとに予測し、予備力を含めた必要な供給力を確保する需給運用計画を立てます。この計画を立てるにあたっては、電力系統において、様々な事象を考慮する必要があるため、年間、月間、週間、翌日、当日に向け精度を高めていきます。



系統運用

変電所・送電線の電気の流れをコントロールしています。

中央給電指令所、基幹給電制御所および制御所が各々の役割と分担する系統範囲を定めて、万全な体制で系統運用業務を行っています。



システムにより高度な需給・ 系統運用業務を実現しています。

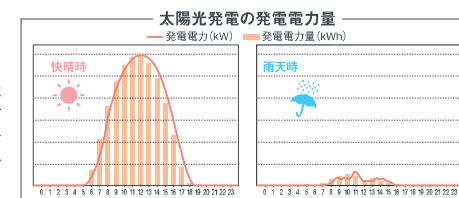
電気の流れを適切にコントロールするため、中央給電指令所システムなどの電力系統を監視制御するシステムを開発・設置しています。



再生可能エネルギー

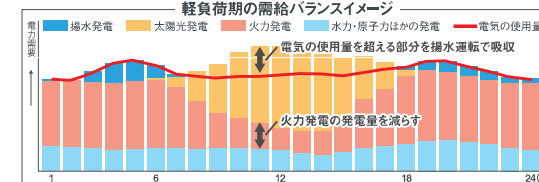
再生可能エネルギーを有効活用します。

再生可能エネルギーは国産エネルギーであり、エネルギー自給率の改善や地球環境負荷低減の観点から貴重なエネルギーと考えています。ただし、出力をコントロールできないため、気象予測データをもとに太陽光発電、風力発電の出力を予測するシステムを導入して、需給運用計画の作成や当日の需給運用に活用しています。



揚水発電を活用します。

太陽光発電や風力発電の発電量の増加に対し、まずは火力発電の発電量を減らして電気の使用量とのバランスをとります。しかし、火力発電だけでは吸収しきれない場合があります。その場合には、揚水発電所の下部貯水池から上部貯水池へ水をくみ上げ需要を創出します。



再生可能エネルギー出力制御システムによりバランスをとります。

揚水発電を活用しても電気が余る場合、余った電気を他エリアへ送電します。それでもなお、バランスできなかったら、バイオマス発電、太陽光発電、風力発電といった再生可能エネルギーの出力制御を行います。何万件にもなる、太陽光発電や風力発電の中から、発電を制御する箇所を自動的に選択する、再生可能エネルギー出力制御システムを開発・設置しています。

停電を未然に防ぐ

電気を確実に届けるために

— 停電を未然に防ぐ —

お客さまに安定して電気をお使いいただくために日常の点検や臨時のパトロールを行い、停電の未然防止に努めています。停電が発生した際は、一秒でも早くお客さまに電気をお届けするため、24時間体制で、復旧作業に向かえるよう取り組んでいます。



— 停電を未然に防ぐ —

常に設備を見守る



電力設備の保守

お客さまがいつも安心して電気を使っているよう、送配電ネットワークを支える約5万基の鉄塔、約170万本の電柱について、現地に赴き、設備や周辺の状況を徒歩により巡視・点検します。また、ヘリコプターやドローンを使った上空からの巡視・点検も行っています。「停電は未然に防ぐ」という強い使命感を持って、電力設備の保守に努めています。



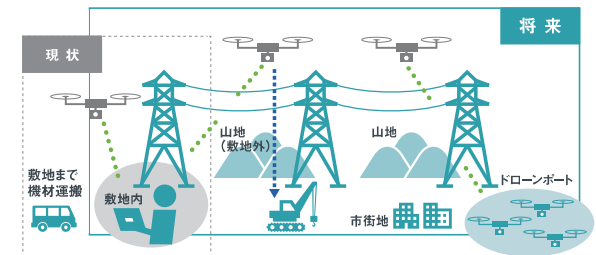
計画的・効率的な設備更新

高度経済成長期に建設された大量のネットワーク設備が、更新時期を迎えています。電力を安定的に低コストでお客さまにお届けするという使命を果たすため、高経年設備更新にあたっては、設備ごとの劣化状況や、期待寿命評価を踏まえ、計画的かつ効率的な改修に取り組んでいます。



設備点検などへのドローン活用

送配電設備の巡視・点検業務へのドローンの活用を推進し、高所作業の省略による安全性の向上、巡視・点検作業の時間や費用の低減に取り組んでいます。さらに、ドローンの自動飛行による巡視・点検業務の実現に向けた実証試験を行うなど、適用範囲の拡大を進めています。また、災害時に迅速に被害状況を把握できるよう、全事業所へドローンを配備し、早期復旧を図る体制を構築しています。



一秒でも早く復旧させる

電気を確実に届けるために

もし、停電が起きたら・・・
そのときは、一分一秒でも早く
復旧させること
そのための訓練や復旧態勢の
強化に努めています。



災害時の対応スキルを高める

復旧・防災のための訓練

当社の使命は、大規模な災害時においても一刻も早く電気をお届けすること。そのためには災害発生時の的確な状況判断と短時間の復旧作業が不可欠です。

そのために、自然災害により大規模な停電が発生することを想定した総合防災訓練を毎年実施し、情報連絡や復旧作業などが防災業務計画および各種マニュアルに従って、安全かつ迅速に行われることを検証しています。

当社や協力会社の社員による浸水や倒木などを想定した復旧作業訓練を行い、安全かつ迅速に作業を進める手順などを確認し災害時の対応スキルを高めています。



社外関係機関や自治体等との連携強化

当社は、地震や台風といった各種災害発生時における円滑な相互協力を行うため、社外関係機関や自治体等と災害に備えた相互連携に関する協定を締結するとともに、平時から訓練や定例会議などにより連携を図り「顔の見える関係」の構築に努めています。



陸上自衛隊大型ヘリによる空輸対応型高圧発電機車の懸吊訓練



第八管区海上保安本部による人員・資機材の搬送

Recover as quickly as possible

停電時間をできるだけ短く

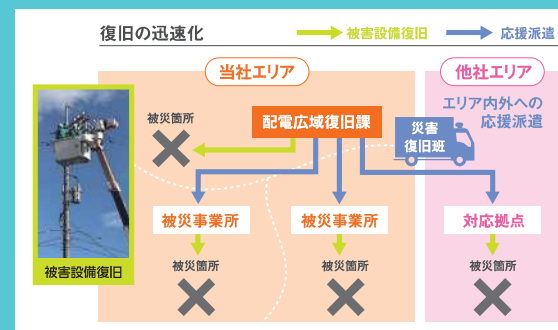
配電自動化システム

電柱の上には電気の流れを切替できるスイッチがあり、当社では配電自動化システムを使って、このスイッチを遠隔で監視・制御しています。配電線で停電が発生した際には、配電自動化システムが自動で故障箇所を判定し、スイッチの切替を行うことで、停電時間を短くする工夫をしています。



配電広域復旧課の設置

大規模災害発生時に、当社エリア内外へ迅速な復旧応援を行う「配電広域復旧課」を設置しています。災害発生時に、被災したエリアの事業所に応援要員を派遣し、被災エリアの復旧作業に加わることで、復旧の迅速化を図ります。また、当社エリア外での災害発生時に、他の一般送配電事業者から応援要請を受けた場合にも応援要員を派遣する体制を整備しています。



地図情報の活用による被害状況の早期把握

被害状況等の写真や停電した電柱などの災害関係情報を地図上に表示するシステムを導入しています。

複数の災害関係情報を地図上に表示し、被害状況を把握することで、最適な復旧要員の配置や、迅速な復旧作業につなげています。



DREC(災害復旧指揮車)

災害復旧の最前線に立つ司令塔

スーパーアンビュランスのように車体の拡張機能を備え、大規模な災害による配電設備の復旧作業における指揮命令の拠点として活用し、復旧作業を効率的に進めることを目的として導入しました。



左右に拡張でき、車内で約20人が同時に作業可能

電気を確実に届けるために お客さまのもとへ 速やかに情報を届ける

より早くお役に立つために

停電情報



停電情報アプリ

停電情報については、スマートフォンなどのアプリやホームページで「停電発生日時」「停電地域」「停電戸数」を発生直後にお知らせするとともに、「復旧に向けた対応状況」や「復旧見込み」をわかり次第速やかに情報公開しています。また、災害時には、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を活用して、設備被害状況や復旧作業の様子などを公開・発信しています。

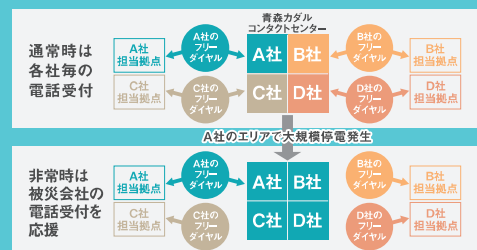
停電情報アプリについて、詳しくはこちら！

<https://www.enegia.co.jp/rw/safety/teiden/teidenapps/index.html>



青森カダルコンタクトセンター

災害時に、お客さまからのお問い合わせが増加した際にもお応えできるよう、他送配電会社と共同運営する「青森カダルコンタクトセンター」で電話受付対応を相互応援する仕組みを整えています。



お問い合わせのチャット受付

停電や電線・電柱等の電力設備に関するお問い合わせをチャットで対応しています。
「電気が点かない」「台風で電線が切れている」などのお問い合わせに対して、チャットボットで自動応対またはオペレーターが対応します。災害時でもつながる安心をお届けします。



<https://chugoku-nw.support-navi.jp/101/>



ワクワクする未来を身近に

地域社会の活性化に貢献

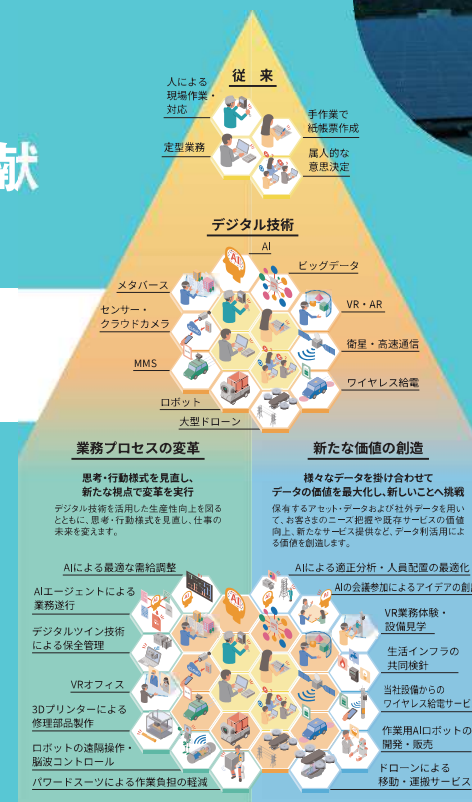
DX推進の挑戦に持続的に取り組み地域社会に新たな価値とサービスを提供

DX戦略未来像

デジタル技術・データを活用して
変革、価値創造を実現します。

CONCEPT DX戦略コンセプト

デジタル技術やデータを活用することで、さらなる生産性や価値を向上させ、経営ビジョン2030の目指す姿「送配電事業の強化」、「新規事業の展開」、「地域活性化への貢献」の実現を加速させます。



新しい技術でより確実な点検

車載カメラによる設備計測

ステレオカメラやGPSなどの計測機器を搭載した車両で、走行しながら建物や設備などの3次元データを取得するシステム「モビリティマッピングシステム」を活用しています。広範囲に設置されている約200万本の電柱などの配電設備情報をデジタル化することで、配電設備の正確な位置情報や設備状況を把握し、これまで目視等で確認していた現場調査業務や点検業務の効率化を図っています。将来的には、取得した画像からAIにより不良箇所を自動判別するなど、点検業務の更なる効率化・省力化を図っていきます。



スマートグラスの活用

現場作業員がスマートグラスを装着し、内蔵カメラが捉えた映像・音声無線ネットワークにより現場から遠隔地にいる作業管理者へ配信することで、現場の状況を正確に把握し、よりの確に指示することができるようになります。





お客さまの豊かで安心な暮らしのために。

お客さまとつながる、 地域とつながる

わたしたちとお客さまをつなぐもの、それは「電気」だけではありません。
お客さまからの声に耳を傾け、ご要望には直ちに対応する。お客さまと気持ちにつながる。
もっとお客さまの役に立つために、お客さまの声に応えます。

ネットワークサービスセンター

停電や、電柱・電線等の送配電設備に関するお問い合わせは、ネットワークサービスセンターで承っています。お客さまからのお問い合わせなどにスピーディーにお答えするとともに、お客さまニーズを的確に把握・分析することで、お客さまサービスの向上に取り組んでいます。

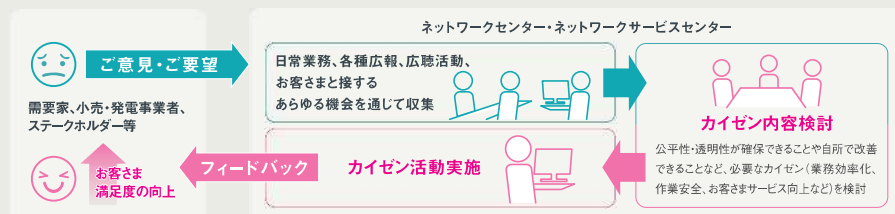


さまざまな社会貢献活動

次世代を担う子どもたちに、環境・エネルギー問題への興味や関心を高めてもらうため、教育支援活動に取り組んでいます。
学校への出前授業、施設見学会などのエネルギー環境教育支援活動「わくわくEスクール」を各所で開催しています。
高齢者の自立支援や社会福祉の向上につながるよう、一人住まいの高齢者宅や社会福祉施設を訪問し、電気設備点検や交流活動などを行っています。



お客さまの声を反映する「カイゼン活動」



お客さまと接するあらゆる機会を通じて、お客さまの声を収集し、収集したお客さまの声を踏まえて業務を改善する活動を「カイゼン活動」と呼んでいます。お客さまからのご依頼・お問い合わせに単に対応することではなく、今までより少しでもよい手段を選択し、よりよい方法に改善・見直しします。
必要なカイゼンを実施することに加えて、カイゼン内容をお客さまにフィードバックし、評価いただくことにより、お客さま対応の更なる品質向上に取り組んでいます。

お客さまの声を踏まえた業務改善は、「お客さまのために何ができるか」「何をしなければならないのか」、お客さまの視点にたって考えていくことが重要だと考えています。

新規事業の展開

保有する設備・データ・ノウハウを活用した新たなサービスの展開や
次世代技術・アライアンスによる新たな事業領域への進出に取り組んでいます。



電柱検索サービス 電柱ナビ

「電柱ナビ」は、当社供給エリア内の電柱位置を地図サイト上へ表示するシステムを用い、お客さまのスマートフォン・パソコンから電柱位置や現地状況の確認、目的の電柱までのルート案内等の機能をご利用いただけるサービスです。

目立った目標物がない場所の位置特定や、電気・通信工事における設計・施工管理などにご活用いただけます。

電柱ナビについて、詳しくはこちら
https://www.energia.co.jp/nw/service/info_use/den_nav/index.html



送電線鉄塔の塗装工事に 物流ドローン

中電工業株式会社提供

2023年度より物流ドローンを用いた工事用資機材の運搬を本格的に導入しています。山間部などの過酷な地形で、作業員が重い資材を背負って昇り降りする負担を解消します。



※1.小型海水淡水化装置



※2.循環式手洗いユニット

小規模分散型の水供給サービス

アクアシフト

河川水や海水等を真水に濾水できる世界最小最軽量級の「小型海水淡水化装置」※1 と、水を浄水して繰り返し使用できる「循環式手洗いユニット」※2 をレンタル提供します。

詳しくはこちら
<https://www.energia.co.jp/nw/service/aquashift/index.html>



防犯カメラ設置サービス みんなをみまもーる

電力サポート中国提供

株式会社 電力サポート中国

当社の子会社である株式会社電力サポート中国が提供する防犯カメラ設置サービス「みんなをみまもーる」は、当社が保有する電柱に防犯カメラを設置いただけるサービスです。私たちは安全・安心なまちづくりに貢献します。

まちづくりにおいて、地域安全のために防犯カメラ設置の取り組みが実施されています。防犯カメラを設置し、年間の犯罪発生率を30%減少させた地区もあるほど、防犯カメラには犯罪抑止効果があります。

みんなをみまもーる について、詳しくはこちら

<https://www.dsapo-c.co.jp/business/bouhancamera2.html>



落雷位置等の標定データ提供サービス

落雷による機器故障が疑われるときに、当該落雷標定データにて、落雷の発生の有無を確認できます。
(提供データ) 落雷および雷放電の検出時刻、緯度、経度

詳しくはこちら

https://www.energia.co.jp/nw/service/info_use/orientation/



お客さまの子メーターをスマートメーターに交換することで、自動検針によりデータがweb画面で確認できます。また、検針業務の効率化やシステム導入などは不要で月々定額でメーター管理ができます。

中国計器工業株式会社 <https://chukeiko.co.jp>



設備系統図・主要事業所一覧



2026.3.31時点

会社概要

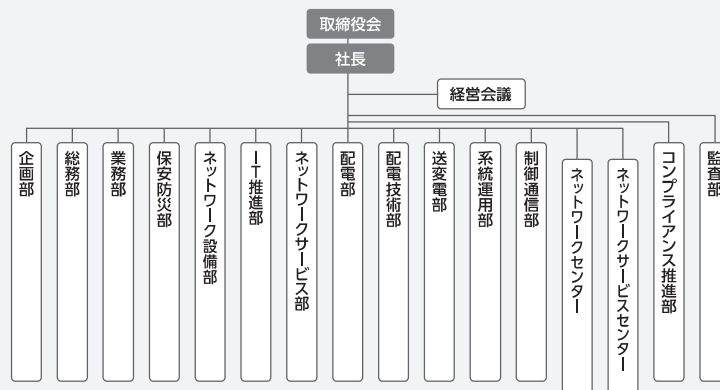
会 社 名 中国電力ネットワーク株式会社
 所 在 地(本 社) 〒730-8702 広島県広島市中区小町4-33
 代表取締役社長 長谷川 宏之
 設 立 2019年4月1日
 資 本 金 200億2857万3476円(中国電力株式会社100%出資)
 従 業 員 数 3,706名
 グループ会社 株式会社電力サポート中国
 中電工業株式会社
 中国計器工業株式会社

設備概要

送電設備	送電線路	送電線路	地中	690 km
		架空		8,147 km
変電設備	変電所数			456 箇所
		出力		61,417千 kVA
配電設備	配電線路	送電線路	地中	3,318 km
		架空		81,815 km

2026.3.31時点

組織図



2026.7.1時点

 中国電力ネットワーク株式会社

<https://www.energia.co.jp/nw/>



この印刷物は、環境にやさしい
植物油インクで印刷しています。

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

2026.7